

## 漢心と漢學び

土田龍太郎

魏文帝曹丕、みづからものせし典論論文の中にて、

蓋文章經國之大業不朽之盛事

と高らかに宣べりしこと、今も弘く世に知られたるは、梁の照明太子蕭統、この論文一首をおのが撰べりし文選に採りたるがゆゑにてもあるべき。この句ただなに心なくうち見るほどは、なほぎりの美辭麗句にすぎずやにもおぼゆめれども、さてやみぬべきにてはあらず。この對偶、もし心を入れてさまざま考へめぐらさば、まこと卓れたる文章の世に及ぼすさきはひのくすしきことわりをわづか十三字にこめたることおのづからに悟らるれば、いともめでたしと云はでやはあらむ。おのが弟なる曹植を疎み苛みたりし曹丕の人となりにも險く酷かりしかたなきにあらざりしことえ否むべからねど、帝王の大度はたなかりしにてもあらず、文藻に富み著述あまたあり才藝ならびなかりしこと陳壽の筆になれる魏書文帝紀を見ても知るをうべし。

そも文章經國之大業なる佳句を文帝のものせしはいついかなるをりなりやは定かならねども、いかなるついでにてもあれ、かかる千古の金言の時に及んで帝王の心にふと浮びたりけむこと、これはるか古へより傳はれる漢國人かうくにびとの學藝の豊けく秀れたるさまを偲おもはしめてあまりありとぞ云ひつべき。

今の世にいはゆる中華文明なる語、漢國人の世々に培ひきたれる智識哲理風雅の精華を指せりとせばほぼ誤りなかるべし。さればこの中華文明、かの國のかしこき人々の思惟言あひつら説情感の集大成にほかならねば、たけ高く奥深きものさすが乏しからず。唐國人の論あひつらひのよしばみこちたきはつねのことにてひがごとなしとはつゆ思ふべからねども、そはさてもこそあれ、かかる論ひとてもあながちに否み拒までもあらなむ。漢國の古籍にはわが國

人のをさをさえ考へ及ばぬくすしくあやしきことどもこころ載りたれば、むしろ心を入れてまめやかに習ひ學ばでやはあるべき。

およそ漢國學びにかぎらず外國學びてふもの楽しくおもしろきばかりにてはあらず、祥めでたきことあり凶々しきこともあり。あだし國人の心になづむにつれて、ようせずば邪まなる路にすずろに迷ひ入らざらむも測りがたければ、危きはつねのことにて一時も思ひたゆむべからず。されば外國學びには良きことと悪しきこととありてほぼあひ半ばするやにも見ゆめれども、おほかたには失より得多く、益は害をしのげるなれば、これをなすはなほやむにまされりとぞ心うべき。

わが鈴屋大人の漢心からしころを斥けてやまざりしこと、知らぬ人あるまじけれども、漢學びのやがて漢心なるにてはなし。漢心と漢學びとさらに同じからねばそのけぢめしかと辨へではあるべからず。

皇御國すめらみくにの古籍を稽へむに、すなほに古人の心を慕ひて古義を明めむとはせで、あるいはおのがほしきままに造りなせる思惟の粹組のごときものにしひて古言を嵌めこみ、またはなにの關りともあるまじきあだし國人の理論を籍り用ゐてことたれりとするともがらず。かかるよしなしごとといづれも附會言説にほかならねば古へ學びの道を損はむことはかり知られず。

鈴屋大人のいまだ世に在りしころほひには、かかるさかしらごとを述ぶるに、もはら漢國人のことわりに隨へるしひごとつねなりしかば、かの大人かりに漢心なる名辭を用ゐしなり。

かへりて今の世の物識人のわが古籍を説くさまを見るに、漢國のみにもあらず、むしろゆかりなき西の夷えびすどもの囀りごとをさながらまねびくりかへして恥ることなきにたれば、これさへまた漢心と同じなまさかしら心によれるしひごとにまぎれなし。かかる物識人、わが國典くにかみにいささかのよすがだになきあだし國の學藝を銜ひてしたりがほなるはいと

もにくけれど、かかる心ざままた漢心に異らざれば、今はこれらくさぐさの戒心えびすしんをもひとしなみに漢心と呼ぶをうべし。

わが國人ともすればいはゆる中華文明のうはべ麗しく壯さかりなるに眼眩み魂奪はれて、ちはやぶる神世より傳はりきたれる惟神のかしこき道を棄てて愧ぢざるはいともうれたきわざなれども、これ必ず中華文明の悪しきにもあらず。あだし國ぶりのはええしきに惑ひてわが皇神すめがみのなほしき道を輕しむることの良しからぬなり。このこと、漢學びは悪しからず、漢心の悪しきなりと云ひかふればたがはざるべし。

漢心と漢學びとたえて同じからねば、悪しき漢心に染むまじと日頃よりしかと心おきてたらばおほかたはことたるべし。

漢心こそは棄ててやみぬべけれ、漢學びは悪しくはあらず。あだし國の典籍にかばかり親むとも、すでに大和魂ふと太しく定まりぬるうへは、この外國學とつくにび益こそ多けれ、害の少きはすでに述べりしごとくなれば、いでやこの方の學びにもすすみはげまでやはあらむ。

あだし國の學藝にかばかりか心いるとも、およそわが皇御國すめらみくにに生れては、大和魂のたにおろそかなるまじきは云ふもさらなり。さはれ世にいはゆる和漢洋才もしは和魂漢才なる言辭にはいささかも心とめでありなむかし。このもの言ひ俗言めきてなにとやらむ淺々しきところあり。かかるもの云ひにとらはれなば、和にても漢にても洋にてもあれ、學びの道の奥處おくがに入らむことふつに望むまじく、ただ中空のままにてやみぬべければ、よろづのいたづきつひにあだごととなりてあぢなきことよなかるべし。

(令和六年三月二十五日受附)